

[果樹部門]

2. 赤く着色した幼果が多い場合の「おかやま夢白桃」摘果時の留意点

[要約]

「おかやま夢白桃」の商品性低下につながる斑状着色果は幼果時の着色が原因である。
このため、果実の片面が鮮紅色に着色した幼果を優先的に摘果するのが望ましい。

[担当] 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 技術

[背景・ねらい]

「おかやま夢白桃」は赤く着色する幼果が多い傾向があり、成熟期の斑状着色の原因となる。そこで、どの程度着色した果実まで残せるのかを明らかにし、摘果に際しての対処法を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 無着色を含む5段階に分けた幼果期の着色程度（満開45日後）と成熟期の斑状着色程度を、色合い、着色の濃さ、着色面積から区分した（表1、表2、図1）。
2. 幼果期の着色程度が「多」あるいは「中」程度のものは、成熟期には「多」あるいは「中」程度の斑状着色程度を示す。しかし、幼果期の着色が「少」程度のものは成熟期の斑状着色程度は「微」程度であり、目立たない（図2）。

以上の結果から、「おかやま夢白桃」の摘果を行う際、果実の片面全体が鮮紅色に着色している果実を優先して摘果すると成熟期の斑状着色果が少なくなる。

[成果の活用面・留意点]

1. 「おかやま夢白桃」の栽培指導に活用できる。
2. 縫合線を境に幼果の片面のみ着色する機会が多いので、摘果の際は見落としのないようにする。
3. 幼果の着色は満開後20日ごろまでに発生し、満開後45日ごろまでの着色程度は変わらない。このため、摘果は満開後25日以降から始める。

[具体的データ]

表1 幼果期の着色程度の判別基準

着色程度	着色の濃さ・状態	着色面積 (%)
多	鮮紅	50以上
中	鮮紅・やや斑状	50以上
少	薄い紅・斑状	40～50
微	極薄い紅・斑状	20～30
無	なし	0

表2 成熟期の斑状着色果の判別基準

着色程度	着色の濃さ・状態	着色面積 (%)
多	濃い褐色・斑状	40～50
中	褐色・斑状	30～40
少	薄い褐色・斑状	10～20
微	極薄い褐色・斑状	5
無	なし	0



図1 幼果期の着色程度と成熟期の斑状着色程度

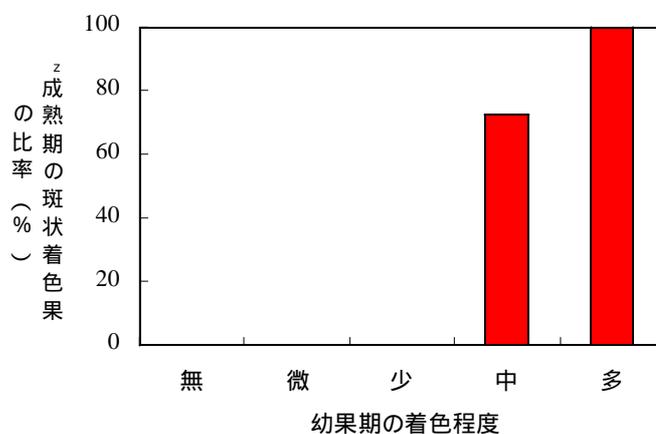


図2 幼果期の着色程度が成熟期の斑状着色程度に及ぼす影響

¹中程度以上の比率

[その他]

研究課題名：「おかやま夢白桃」のブランド化のための安定生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2007～2011年度

研究担当者：藤井雄一郎、安井淑彦、永井真弓

関連情報等：1)平成20年度試験研究主要成果、25-26